



特集

がん

在宅チームケア

多職種で持ち寄る知恵とワザ

病床削減や入院期間の短縮化などにより、在宅に帰ってくる重症のがん患者さんが増えています。

外来治療中の方、終末期の方などさまざまですが、急激な経過を辿りがちな末期がんの場合、とくにスピーディーでタイムリーな対応が求められます。

短い関わりのなかでは、利用者本人・家族だけでなく、関係者との連携づくりの時間も少なくなります。そのため、日頃から、また毎回のケース対応の積み重ねや工夫で、「チーム」をつくっていくことが欠かせません。

本特集では、「がん在宅ケアチーム」を構成する各職種から、事例を通して「その職種の視点」と「その職種にできること」を解説していただきます。

よりよい連携のために、まずは「チームメイト」の専門性と考えを知りましょう！